



森の中に佇むミュージアム

学習院大学図書館耐震改修工事 霞会館記念学習院ミュージアム

東京都豊島区

設計・監理／石本建築事務所
施工／松井建設

学習院の歴史と知の集積を未来へ伝える

― 学習院大学の特色ある史資料の展示と

社会への還元

本計画は、近代から現代に至る皇室・皇族・華族に関する史資料・作品等を展示・公開し、広く社会に情報を発信・共有するため、旧図書館を博物館へ改修する工事である。ミュージアムを運営する学習院大学史料館の収蔵史資料は総件数約25万件に及び、貴重な収蔵品の展示・保管とともに、国宝・重要文化財の展示に必要な文化財保護法第53条に定める条件を満たすことを目的としている。

― 未来に伝えるモダニズム建築と

学習院の知の集積

学習院大学は1949（昭和24）年の開学から10余年を経た1960（昭和35）年より、前川國男によるキャンパスプランが作成された。旧図書館はその計画の最後に建てられ

た建物である。大学図書館の移転に伴い、この旧図書館を博物館に改修することで、前川國男が描いた目白キャンパスの歴史を未来へ伝えることを目的とした。

改修においては、前川國男によるモダニズム建築の外観継承を目的とし、竣工時の姿に戻すことを目指した。外壁仕上げは設計段階で剥離調査を行い、打放し仕上げの復元が可能と判断。工事段階では丁寧な劣化補修と材料選定を行い、建築当初の外観を復元した。また、森の中に佇む博物館のエントランスとして軒天に杉板を使用し、前庭からの外観を更新し新たな博物館としての外観を創出した。建物内装は、既存のPC床板や書庫フレームを活かし、博物館機能を鑑みた各室の配置計画、建築仕様・材料の選定、設備計画、劣化補修、構造補強を施し、建物の機能回復と継続利用可能な施設を実現した。また、建物

全体を断熱し、省エネルギー化に配慮した。エントランスホールには「前川國男コーナー」を設け、ミュージアムが所有している前川國男による建築の展示や、旧図書館で使用されていた水之江忠臣氏のチェアの展示も行っている。

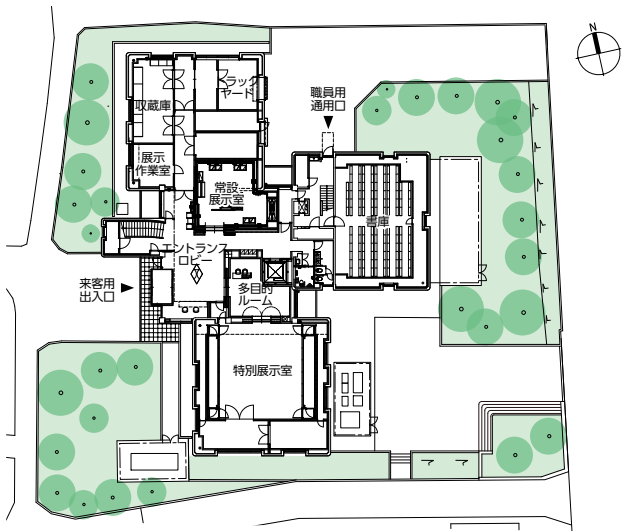
― 学芸員資格の取得を目指す学生の支援

博物館学芸員資格取得を目指す学生の実習を支援するため、実習室を配置し、実物史資料の模擬展示が行える展示ケースの設置等を行った。

開館記念展として「学習院コレクション 華族文化 美の玉手箱 ―芸術と伝統文化のパトロジー」が開催され、ミュージアム所蔵のコレクションの展示が行われた（会期：2025年6月23日～8月2日）。これからも学習院大学の歴史を未来に伝える拠点となることを願っている。（高柳雅一／石本建築事務所）



上／特別展示室 下／硬式野球場側広場 解体したピラミッド校舎（設計：前川國男）のタイルや木レンガを活用している



配置・1階平面図 縮尺1/1,000



上／改修前* 下／既存塗装を剥離する調査の様子*



改修後：軒天に杉板を使用



エントランスホールと前川國男コーナー



常設展示室

施工計画

一 施工中の基本理念

本工事は大学敷地内での工事であるため、大学関係者の安全・安心を第一に施工計画を立案した。また、本建物は1963年10月に竣工し、60年にわたり大切に使われてきた建物である。そのまま継続して使い続けることを目的に、既存躯体を可能な限り傷めないよう細心の注意を払いながら工事を進めた。

一 内装工事計画

内装解体後に躯体調査実施し、設計図書との整

合を進めると同時にBIMモデルを作成し、新規に納める設備機器や意匠と既存躯体との干渉を事前に検討した。特にA棟以外のB・C・D棟は、屋上を含む床材がPC製の特殊断面の梁を敷き並べることによって形成されていたため、機器類の配置や内装材の支持部材などの施工方法・配置に十分な検討を要した。

一 外装工事計画

改修工事の目的の一つでもある竣工当初の再現に向け、建物自体（躯体）の復旧に重点を置いて施工した。1963年以降に施されてきた過去のの



BIMモデル画像



B・C・D棟既存床梁



既存躯体

（写真提供：松井建設）

霞会館記念学習院ミュージアム データ

所在地 東京都豊島区目白1-5-1

主要用途 博物館（主要用途：学校）

※現大学図書館を全面改修

建築主 学校法人 学習院

設計・監理 石本建築事務所

担当／建築：高柳雅一、佐野英香 構造：中村明弘

電気：梅宮 亮、山本真由美、金原浩志 機械：野口 亮、

小林一敏、穴澤麻依子

展示工事 トータルメディア開発研究所

担当／中尾宏太郎、三上喜隆

サイン計画 酒井田デザイン事務所 担当／酒井田成之

施工 松井建設

担当／白渡英巳、久保田修司、鶴田雄一

設計期間 2022年4月～2023年3月

工事期間 2023年2月～2024年2月

新築時竣工年月日 1963（昭和38）年10月19日

新築時設計・監理 前川國男建築設計事務所

新築時施工 大成建設

【建築概要】

建築面積 898.53㎡

延床面積 3,217.08㎡

構造規模 RC造 地上3階、PH階（中2階、中3階含む）

寸法 最高高さ／15.350m 軒高／13.95m

【改修項目】

建築工事 耐震補強工事／構造耐震指標Is≧0.7かつCTu・

SD≧0.3 外壁改修工事・防水工事／既存外壁補修、防水

全面改修 内装改修工事／■博物館機能（史料館・学芸員課

程の2部門）の各室配置 ■内装・建具の全てを撤去・新設

・建物全体をエネルギー環境に配慮した仕様（断熱計画）

アスベスト除去工事／アスベスト調査報告書を基に、法令

もとづき適切な処理計画を行う（調査報告書よりD棟が対象

範囲）

電気設備工事 ■内装間仕切り変更、トイレ改修工事に伴

う工事 ■照明器具更新（LED化） ■火災報知設備更新

空調設備工事 空調換気設備の改修工事

給排水衛生工事 ■トイレ改修工事 ■給排水設備改修・

更新工事 ■屋内消火栓設備の改修・更新工事 ■不活性

ガス消防設備の新設

昇降機工事 ■小荷物専用昇降機補修工事 ■昇降機新

設15人乗用新設

【主な外部仕上げ】

屋根 既存防水層撤去の上アスファルト防水、保護シート

壁 既存外壁剥離の上打放し保護塗装

【主な内部仕上げ】

エントランスホール 床／磁器質タイル 壁／砂壁調塗装

仕上げの下に鉄筋やコンクリートの傷みが確認され、その都度、構造監理者と慎重に確認作業を行った。外観についてはモックアップによる確認と施工後の確認を複数行い、施主・設計との合意形成を図った。

一 工事を終えて

今回の工事は、大学関係者、設計・監理、協力業者、現場スタッフのすべての関係者の協力と努力により無事竣工することができた。すべての関係者に感謝しつつ、由緒ある建物の施工に携われたことを誇りに思う。（白渡英巳／松井建設）



白渡 英巳……しうと ひでみ
1974年生まれ。1998年日本大学工学部建築学科卒業、同年松井建設入社。現在、同社東京支店作業所長



撮影／近代建築社（篠澤建築写真事務所）
*撮影／石島写真事務所



佐野 英香……さの ひでか
神奈川県生まれ。1992年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業後、石本建築事務所入社。現在、同社設計部門建築グループ次長

協力会社

小荷物専用昇降機設備工事	横 浜 エ レ ベ ー タ
型 枠 工 事	影 浦 工 務 店
TB・防火扉・重量SS・SD・LD	三 和 シ ャ ッ タ ー 工 業
打放しコンクリート屋外壁防水改修工事	セントラルコンクリート
木・内 部 造 作 工 事	ク リ ア 工 芸 舎
防 水 板 工 事	鈴 木 シ ャ ッ タ ー
ロールスクリーン工事	ニ チ ベ イ